



生理で学校に行けなくなる女子学生の教育環境改善事業（ウガンダ共和国）

月経時の衛生管理と性教育

実施日：2017年4月20日、5月4日

場所：チバリングガ初等学校(Kibalinga Primary School)（4月20日午前）、ルワウナ初等校(Lwawuna Primary School)（4月20日午後）、プレシャス子供学習センター（5月4日）(Precious Child Learning center)

<序論>

月経は非常に敏感なテーマである。SORAKと活動協力者であるGlobal Bridge Networkは現状把握のためにベースライン調査を行い、月経時の衛生管理（MHM）に関して、女子生徒や女性教師が直面する課題を洗い出した。

<対象校における課題>

対象3校におけるベースライン調査を通じて、それぞれの学校において以下のような課題があることが明らかとなった。

◆ チバリングガ初等学校

- 女子生徒が生理で漏れてしまうのを見ると男子生徒がからかう
- 月経時にどうすれば適切に対処できるかわからず不快な思いをする
- 衛生施設の不備（女子用トイレは3個室のみ）
- 緊急時に使用できる生理用ナプキンがない

◆ ルワウナ初等学校

- 学校の予算が限られているために女子生徒たちに生理ナプキンを提供できない
- 生徒の親も女子生徒に生理ナプキンを買い与えることができない
- 学校の施設（トイレ、更衣室など）が不足している、等である。

◆ プレシャス子供学習センター

その他の2校よりもはるかに良いものであった。ベースライン調査に参加した生徒たちは、月経時の衛生管理を学び、適切に対応できるようになる必要があると主張した。

さらに、青年期の女子生徒は、親戚、友人、地域の有力者や教師から性的な嫌がらせを日々受けていることが判明した。彼女たちは被害にあった際にどのように助けを求め、性的な嫌がらせから自分自身を守るための方法を学ぶ必要がある。

生徒からあげられた事例

- 異性の胸、ウエスト、脚、臀部に触られる
- 男子が女子に性交を強要する
- 教師が女子生徒に性交を要求する
- バイクタクシーの運転手が女子生徒に性交を要求する
- バーの中年男性客が経営者の娘に性交を要求する

このような状況から、多くの生徒に月経や性に関する権利についての知識を提供することで上記の問題に対応し、より良い学校環境を整備する必要がある。

<レーニングの目的>

1. 月経時の衛生管理を理解し、同級生に伝えることができるようになる
2. 月経時の衛生管理における個人の役割と責任を理解する
3. 性的な暴力や嫌がらせから自分自身を守れるようになる
4. 広義の身体的な男女の性差を理解する

<トレーニングで扱ったテーマ>

- 月経やその周期サイクルの理解
- 生理における衛生管理
- 生理における保護者、生徒、教師たちそれぞれが果たすべき役割
- 性の定義と両性の特徴
- 幼児婚や早期の性交渉の影響
- 性暴力や嫌がらせの種類や背景
- 性暴力や嫌がらせの対処法や報告の方法
- 学校における性的嫌がらせの種類とそれらをどのように撲滅できるか
- 教師による性暴力や嫌がらせ
- 教師以外の大人による性暴力や嫌がらせ
- 性暴力の被害者をどのように助けることができるか

<生理と月経時の衛生管理>

生徒たちは男女共に以下について指導を受けた

- 月経が始まる年齢
- 月経は女性の体が発達し成長しているサインである
- 月経は女性が健康であり、子ども生むための生殖機能が健全である証拠
- 月経は避妊をしない性行為による女子の妊娠の指標となる
- 生理時に清潔に保つ方法
- 生理時に利用できる（ナプキンの役割を果たせる）オプション
- 市販の生理用ナプキン・再利用可能な生理用布ナプキン
- 再利用可能な布ナプキンの利点：長い目でみれば経済的、長期的に使える、など

- 生理時に不衛生な物を使うことによる危険（女性の生殖系における感染など）

<ファシリテーター>

- Nakayi Florence : JOYI-Uganda 代表
- Muhamad Kyeyune : SORAK Development Agency 代表
- Nnakiruuta Hadijah : 同 プログラムオフィサー
- Muhumuza Adolf : 同 プログラムオフィサー

<参加者>

初等学校4年生から7年生（年齢10才から16才）の生徒が選抜された。それぞれの学校の参加者構成は以下の通り。

◆ チバリング初等学校

男子生徒145名、女子生徒172名



チバリング初等学校において、ファシリテーターの性的嫌がらせに関する説明に聞き入る子供たち

◆ ルワウナ初等学校

男子生徒132名、女子生徒165名



ルワウナ初等学校で月経時の衛生管理における各自の役割を学ぶ生徒たち

- ◆ プレシヤス子供学習センター
男子生徒 28名、女子生徒 59名



子供学習センターで月経時の衛生管理トレーニングに参加した数名の7年生

<トレーニングの成果>

トレーニングを行った結果として各校において以下のような成果が得られた。

- 生理による影響や月経周期、生理における衛生管理について理解した。
- 各自の経験を共有することで月経時の衛生管理のそれぞれの役割を学んだ。
- 生徒は男女の身体的な構造の違い（性差）について理解した。
- 女子生徒たちは、どのように性的暴力や嫌がらせから身を守ればいいのか、学校やコミュニティにおいて対処の方法を知った。
- 男子生徒にも、女性の月経時の衛生管理、性的に平等であるべき自分たちの役割や責任を学んだ。
- 男子生徒たちは、女子生徒が性的嫌がらせを受けた際にどのように助けられることができるか、報告をすればいいのか学んだ。
- 性的嫌がらせにあった際に誰に相談すればいいのかを学んだ。

参加者の声

「月経は女子だけの問題だと思っていたが、トレーニングを通じて自分も何か助けになれるということがわかった」（7年生男子学級委員長）

「トレーニングはとても興味深かった。自分や友人が性的暴行にあった際にどう対応すればいいのか分かった」（6年生女子生徒）



月経時の衛生管理を推進するために何ができるか意見を述べる生徒
(チバリンガ初等学校)



月経時の衛生管理に関る人々それぞれの役割や責任について話し合う
参加者たち (ルワウナ初等学校)



性的暴力の例をあげる生徒：ナガビ・レーマ (ルワウナ初等学校)



月経時の衛生管理トレーニングのメッセージに耳を傾ける生徒と教師
(プレシヤス子供学習センター)

<教訓・今後の方向性>

性犯罪を扱うには警察の協力を仰ぐ必要がある。警察が適切に関与することで、性犯罪が示談等不当に放置されることを避け、犯罪の抑止につながる。